

【事業名】

(宮城県大崎市)

【団体名】旧品井沼周辺ため池群里山未来拠点協議会

令和6年度 生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10-6

事業の背景・目的

里山ため池はシナイモツゴやゼニタナゴなど絶滅危惧淡水魚の最後の生息場。水生昆虫、両生類、貝類も生息。近年、アメリカザリガニが急増し水生動植物が食べ尽くされ、魚類が激減。アメリカザリガニを捕獲する簡易技術を確立し防除と有効活用を実践し、ため池の生態系を長期保全する自然再生モデルの構築を目指す。



アメリカザリガニ被害動植物 1水生植物 2タガイなど二枚貝 3シナイモツゴ 4ゼニタナゴ 5ミナミメダカ
6アカガエル 7クロサンショウウオ 8ヌカエビ 9ミヤケミズムシ 10トンボヤゴ 11エグリトビケラ

事業の内容

- ア) 低密度管理経費削減
実証化事業
- ・地域住民主体に連続捕獲装置(図1)と小型ザリガニ専用トラップ(図2)で捕獲し低密度管理(R5~6)
 - ・誘引餌コストダウン(R5~6)
 - ・捕獲作業の省力化(R6)

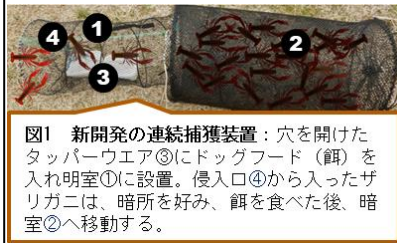


図1 新開発の連続捕獲装置：穴を開けたタッパーウェア③にドッグフード(餌)を入れ明室①に設置。侵入口④から入ったザリガニは、暗所を好み、餌を食べた後、暗室②へ移動する。



図2 小型ザリガニ専用トラップ：入口にネットを装着して大型ザリガニの侵入を阻み、小型ザリガニを大量捕獲。

- イ) 捕獲ザリガニの有効活用事業
- ・塩水飼育(写真①)、唐揚げ、ビスクスープのレトルトパック試作(写真②)等を試食、試験販売(写真③)



- ウ) 捕獲ツールの提供体制強化事業
- ・作製技術研修会で作成技術者育成
 - ・情報提供：アメリカザリガニ防除パンフレットを印刷し普及啓発

- エ) 保全モデル構築・情報発信事業
- ・総会開催しモデル化に向け協議
 - ・シンポジウムを東京(写真④)と大崎市で計2回開催し成果を情報発信
 - ・保全池現地研修会で取り組み紹介

得られた成果

低密度管理：①地域住民主体で捕獲を継続。
気温上昇により春～夏に小型ザリガニが急増、小型ザリガニ専用トラップを増設して捕獲を強化し低密度管理を維持した(R6)。
②誘引餌コストダウンは、高水温時の大型個体に有効(R5)。
③捕獲作業の省力化は、連続捕獲装置では隔週(2週間に1回)捕獲が有効(R6)。

捕獲ツール提供強化：技術研修会で連続捕獲装置と**小型ザリガニ専用トラップの作製技術者を育成(R6)。**

今後解決すべき課題

- 温暖化によるザリガニ増加の対策として小型ザリ捕獲を強化
- 小型ザリガニの有効活用促進

有効活用：①大型ザリガニ：中華料理店で麻辣炒め、野外試験販売で塩水飼育ザリガニボイルの評価が高く、高級食材として新聞・TVで報道された(R5~6)。
②**小型ザリガニ：**地元2つの高校と連携しビスクスープのレトルトパックを試作、唐揚げも好評(R6)。

復元生物モニタリング：連続捕獲装置のザリガニ平均捕獲数(CPUE)が20尾以上に増加すると人工水草のヤゴ平均観察数が減少することがわかった(R6)。